アクティブ・ラーニングをサポートする！読書活動・指導アイデア

中学校

継続的・計画的な読書活動・指導アイデア
読みの幅を広げるための継続的・計画的な読書活動

静岡県三島市立中郷西中学校　齊藤真子

1 読書活動の概要

読書とは、個人的な営みである。しかし、授業の中では、集団で読むという行為が伴う。そこで、個人の読みを他者の読みと重ね合わせたり、対峙したりすることにより、読み方を学んだり、読みを深め広めたりすることが可能となる。

学習指導要領にも示されているように、目的に応じた読書から、自分の考えを深めたりまとめたりすることが、国語の学習で求められている。しかし、我々の読書とは学校という限られた空間だけのものではなく、生涯を通じて行われるものである。授業で学んだことが、他に派生し、また読書生活に活かされる。

読書といってもその範囲は広い。国語の授業では、マンガ、広告、新聞、ニュース、歌詞などの教材化を図り、さまざまな読み物に出会う機会を設ける。また、思考整理のための方法（ブレーンストーミング、KJ法、マンダラート、マッピング、ホワイトボードの活用、付箋紙の活用など）も取り上げる。

そこで私が大切にしている読書活動・指導は次の三点となる。

1　どのような感想をもつのか。
2　それは読者にとってどのような意味をもつのか。
3　この文章に出会ったことでどのように読者が変化するのか。

これらは次期学習指導要領が示す三つの柱とも重なるところがある。

2 授業（教科書教材）との関連

継続的・計画的な読書指導は、授業と切り離して考えることはできない。なぜならば、日々の授業の積み重ねこそが、生徒の読書量と読書力を支える根底をなすからである。先にも述べたように、読書という個人的で内省的な活動は、個々の読みの力に支えられているからである。また、心の琴線に触れる言葉に出会えるか否かも、その言葉の意味の認識力にもかかわるからである。

授業だけではなく、司書教諭や学校司書との連携も欠かせない。教科書に取り上げられた作者、筆者の元本やその他の作品を学校図書館に置き、生徒たちの手にとりやすい状況にすることも重要な要素となる。

3 指導の実際

ここでは、特に重点的に取り組んだものを示したい。先に示した1～3までを、三年間を通して計画的に学習し、読書への関心を高め、また、表現する学習を合わせることで読む力も伸ばすことが可能となる。単学年の実施であっても、年間を通じて読みの視点をいくつか提示することで、読むことへの関心が高まり、それらが個々の読書へと通じる。

(1) 第一学年

単元名　群読をしよう　九月・三時間
教材名　「何にでも値段をつける古道具屋のおじさんの詩」

教材の詩を読んだ後、寺山修司の他の詩をいくつか紹介する。二人から四人までのグループを作り群読の練習をし、発表する。詩を読む機会が少ない生徒たちであるが、韻文を読む楽しさを味わい、興味をもたせることができる。

単元名　ポップを作ろう　十一月・三時間
教材名　「私のブックデザイン」

読書週間に向けて、学校図書館にある本の中から一冊を選び、その本のポップを作成する。紹介はスピーチで行い、作品は学校図書館に掲示する。その利用には個人差がある。そこで、学校司書と連携を図り、さまざまな本を紹介し、本への関心をもたせた。

単元名　広告を作ろう　二月・四時間
教材名　「隠れた世界を知る」

広告の読み方を学習した後、中学校の広告を実際に作成し、それを校区内の小学校六年生に届ける。キャッチコピー、デザイン、商品の配列などを読み、印象を強く与えるための工夫を読む。広告も読み物として扱うことで、言語感覚を養い、流行語や語の響き、テレビコマーシャルとのつながりなど多角的にとらえて読むことができる。

(2) 第二学年

単元名　新聞を読もう　七月・一時間
教材名　「情報を読む・世界を編集する」

同じ出来事を扱った二社の新聞記事とテレビニュースを取り上げ、同じ出来事であっても強調して描いていることが異なることを知り、描かれていないことを読むことの重要性について考えることができる。

単元名　プレゼンテーションをしよう　十一月・七時間
教材名　「走れメロス」

「メロスと○○」と登場人物の関わりの中から物語の主題を導き出す。多角的に登場人物をとらえ、それを他者と交流させることにより、自分の考えを根拠を明確にさせて読むことへとつなげる。関わりの中で読むという読みの型の習得が、物語や小説を読むときに役立たせることができる。

単元名　戦争を読もう　一、二月・五時間
教材名　「花いちもんめ」「目撃者の眼」「挨拶」

ここでは詳細な読解は行わず、印象に残った場面や言葉を紹介し合った後、戦争に関する資料を読み、描かれ方の違いを見つける。戦争とひとくくりにすることはできず、主体によって描き方が異なっていることに気づき、客観的な見方と主観とを区別しながら読むことができる。

単元名　インターネットで集めた資料を読もう　二月・二時間
教材名　「プロセスの建築」

インターネットを利用し、登場する建物について調べた。インターネットに書かれている情報の整合性について考え、読書が本の形式をもつものだけではないことについて考える機会を設けた。

単元名　マンガとアニメーションの描き方の違いを知ろう　三月・二時間
教材名　「ワンピース」「スラムダンク」

マンガとアニメーションの描かれ方の違いを比較する。教材についてはあらかじめ生徒から募り、その中で準備ができるものを行う。日常的な読書では娯楽として読んだり見たりしているものを、短い場面であるが詳細に読むことで、それぞれの表現方法の良さを改めて感じることができる。

(3) 第三学年

単元名　比喩表現を読もう　七月・二時間
教材名　「water」

比喩表現の効果について考えた後、朝読書で読んでいる本の中にある比喩表現を見つけ、紹介する。どのような場面で使われているかを考えることで、印象的な言葉遣いについて考えることができる。

単元名　新年の挨拶をしよう　一月
「新しき年の初め」一時間
教材名　「万葉集」

教科書には採録されていない大伴家持の歌を取り上げ、新年の挨拶歌を創る。その際、既習の表現技法を用いて創り、読みと詠みとを連携させ、作り手の側から読む力を育ませる。読み手として表現技法を知っていても、実際に創作する側になるとその工夫を効果的に行うことは難しいことに気づく。そこに本学習のねらいがある。

単元名　世界と私　二、三月　三時間
教材名　「パールハーバーの授業」

国際社会における日本について資料を集め、スピーチを行う。未来を生きる自分や世界の展望について、作品紹介と共に行う。

(4) 全学年を通して

朝読書の実施

月～木まで、始業からの十五分間を朝読書の時間とする。基本的には自由読書であるが、年に一度、共通図書による読書期間を設ける。

読書週間の読書記録

読書週間を設け、読書記録をつける。本年度は、既読の本を再読し、心に残った言葉やその理由を記録した。学級で二名、昼の放送でその内容を紹介したり、学校図書館に掲示したりした。

読書週間企画　本の世界と食でつながる

Our Great Lunch Story と題し（ネーミングは外国語支援助手、学校司書、栄養士とが話し合いの上、決定した）作中にでてくる食べものや料理を栄養士とコラボレーションして、給食のメニューとして再現。学校図書館にある本の中からメニューを選出。来年度は、生徒が読んだことのある本からもメニューを考えたい。

学習委員による選書

学習委員の生徒による選書を行い、司書教諭や国語科の教員と検討の上、図書の購入を行う。

4 読書活動を支える実物資料

第一学年：ポップを作ろう

タイトル・作者名・出版社を紹介し、話の内容を興味深いと思われる内容で記入する。色と絵の印象から、これらの評価が高かった。

第二学年：プレゼンテーションをしよう

学習した内容をグループでまとめ、プレゼンテーション資料を作成する。授業の流れ（読みの手順）を生徒に提示し、見通しをもって読み進める。初読の感想を書いた後に、級友に返事をもらい、読みを交流させる。

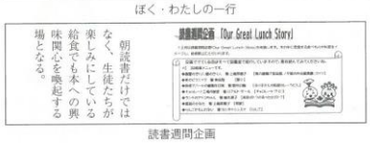
あらすじを伝えるために因果関係をとらえたり、人物相関図を作成して登場人物の関わりを視覚化させたりし、小説の内容を級友と共有していく。

第三学年：新年の挨拶をしよう

表現する学習は、読んで理解したことを自分の言葉としてとらえ直すことができる。

全学年を通して

ぼく・わたしの一行



朝読書だけではなく、生徒たちが楽しみにしている給食でも本への興味関心を喚起する場となる。

読書週間企画